

農政学特論演習Ⅱ (2単位)

担当者氏名 堀部 篤・五條 満義

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

本科目は、農業経済学を専攻する大学院生が、農業政策をめぐる基本課題および分析手法を体系的に理解することを到達目標とする。受講生各自の主体的な考察と討論への参画を前提とし、演習を進める。具体的には、①現代日本の農業政策の研究課題、②新たな農村地域政策の可能性と論点を理解し、③政策分析手法を習得する。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

農業政策

農村地域政策

政策分析手法

地方財政

農地制度

移住支援

新規就農

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	ガイダンス	講義の目的、農政学の研究領域、受講に当たっての注意事項、受講生の農政上の関心の確認	全講義について、以下の予習復習が必要。
2	農政学の文献・情報収集方法	関連する学会誌、業界誌、統計、Webサイトの利用方法	
3	現代日本の農業政策の研究課題 (3~6 講)	農業政策体系、農業政策の形成過程、具体的な政策課題(経営支援施策, 農地利用調整、新規就農支援など)	準備学習として、講義内容に関連する文献を精読し、疑問点、論点を提示できるようにする。
4			
5			
6	新たな農村地域政策の可能性と論点 (7~10 講)	農村地域政策体系、地方財政制度と自治体、新たな農村地域政策(先駆的な自治体の取り組み、日本型直接支払制度、地域おこし協力隊、「地方創成」)	講義時に理解が不足している部分について、復習する。
7			
8			
9			
10	政策分析手法の習得 (11~14 講)	定量的研究(計量分析)と定性的研究(事例分析)のメリットとデメリット、定性的研究における科学的推論の方法、政策分析のリサーチ・デザイン	各回の予習・復習時間は、2~3 時間程度を目安とする。
11			
12			
13			
14	まとめ (15 講)	授業内容を総括する	
15			

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

随時プリントを配布する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

改革時代の農業政策—最近の政策研究レビュー/生源寺真一/農林統計出版(2009年)

農山村再生に挑む—理論から実践まで/小田切徳美/岩波書店(2013年)

英国農村における新たな知の地平—Centre for Rural Economyの軌跡/フィリップ・ロウ/農林統計出版

社会科学のリサーチ・デザイン—定性的研究における科学的推論/G. キング・R. O. コヘイン・S. ヴァーバ/勁草書房(2004年)

政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法/伊藤修一郎/東京大学出版(2011年)

日本農業年報シリーズ／谷口信和ほか／農林統計協会（各年版）

以下の学会誌の農政学関連論文、『農業経済研究』（日本農業経済学会）、『農業問題研究』（農業問題研究学会）、『農業経営研究』（日本農業経営学会）、『農林業問題研究』（地域農林経済学会）、『農村研究』（食料・農業・農村研究学会）。

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

授業時の発表内容、討論への参画状況、レポート等で総合的に評価する。

◆オフィスアワー

毎週金曜日3時限に、研究室で質問等を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

授業で随時指示する。
